



唐獅子牡丹

神聖なる空間を守護する「動」と「静」の美

百獣の王と百花の王が織りなす、究極の魔除けと吉祥の象徴。

最強の組み合わせが 導く「魔除け」

この板絵に描かれているのは、非常に縁起
が良く、魔除けの意味を持つ伝統的な画題
「唐獅子牡丹（からじしぼたん）」です。

圧倒的な力を持つ獅子と、気高く咲き誇る牡丹。
二つの「王」を組み合わせることで、邪気を払う
強力な結界を生み出しています。

百獣の王である「唐獅子」



百花の王である「牡丹」



宇宙のすべてを表現する「阿吽の呼吸」

神社の拝殿や狛犬で対となるこの二頭は、単なる二匹の獅子ではなく、世界の始まりと終わりを体現しています。



「阿形（あぎょう）」
口を大きく開けた姿。
物事の「始まり」を意味する。



「吽形（うんぎょう）」
口を固く結んだ姿。
物事の「終わり」を意味する。

左の板絵：【動】を司る阿形

渦巻くような毛並みの線が、目に見えない風や気を孕み、圧倒的な力強さを放つ。

上方から勢いよく飛び降りてくるような、凄まじい躍動感。

静かな空間を切り裂くような「動」のエネルギーが、画面全体から溢れ出しています。

刻まれた時間と、紅白の華やぎ

単なる劣化ではなく、長い年月を経て拝殿を見守ってきた「歴史の重み」。本物の文化財だけが持つ、独特の凄みがここにあります。

紅白の牡丹。
激しい獅子の動きに寄り添うように、華やかに咲き誇る。



紅白の牡丹。激しい獅子の動きに寄り添うように、華やかに咲き誇る。



絵の具の剥落と木の変色。

右の板絵：【静】を司る吽形

口を結び、じっと下を覗き込むような
厳格な表情。

岩場（あるいは切り株）に前足をかけ、
どっしりと構えた静的なポーズ。

左の獅子が放つエネルギーを受け止める
かのような、揺るぎない「静」の守護者。



厳格なる親心と、鮮やかな色彩

赤い牡丹と緑の葉。左の紅白とは異なり、こちらは赤一色。補色である緑の葉とのコントラストが極めて鮮やか。



「獅子の子落とし」の情景。

我が子を深い谷に投げ落とし、這い上がってきた強い子だけを育てるといふ故事を彷彿とさせる、厳しくも深い愛情と威厳。



完璧な調和が織りなす、神聖な結界



向かって左の「動（阿）」

対極にある二つの力が
組み合わせることで、
拝殿という神聖な空間を
邪気から力強く
守護しています。



向かって右の「静（吽）」

唐獅子の毛並みのうねり、牡丹の計算された配置。
構図のバランスが極めて美しい、見事な対の傑作です。